

全国小学校英語教育実践研究会 令和2年度 「わたしの英語教育実践」	4年 外国語活動 (9月) 教材名 Let's Try Unit 4 第3時/4時間扱い
テーマ番号①テーマ外国語活動の授業づくりの工夫(中学年)	熊本県熊本市立託麻西小学校 4年担任 江上圭子

『聴く、見る、考える、思いやる、つながる』きっかけ skit

本単元の時刻を尋ねる What time is it? と「時差」の学習後、子どもたちは、「世界には、朝の国もあれば、夜中の国もあることに驚いた。」とか「他の国は、今何時だろう。」等と授業の振り返りに記述し、「学ぶ姿勢」が学級全体に浸透し始めたと感じた。その次時である本時は、更に相手意識を高める絶好のチャンス！と考え、ALTと学級担任のやり取り(skit)での導入を計画。What time is it? を何度も聞かせつつ、相手のことを思いやるきっかけづくりを試みた。本物のやり取り(言語活動)から、子どもが問いを持ち、主体的に学ぶ「学びのスイッチ」を大事にしていきたい。

What time is it?
Look! It's 9 a.m. ②

Egami sensei, What time is it? ①

Oh! Thank you.
It's 9 a.m. (ALTは困った表情) ③

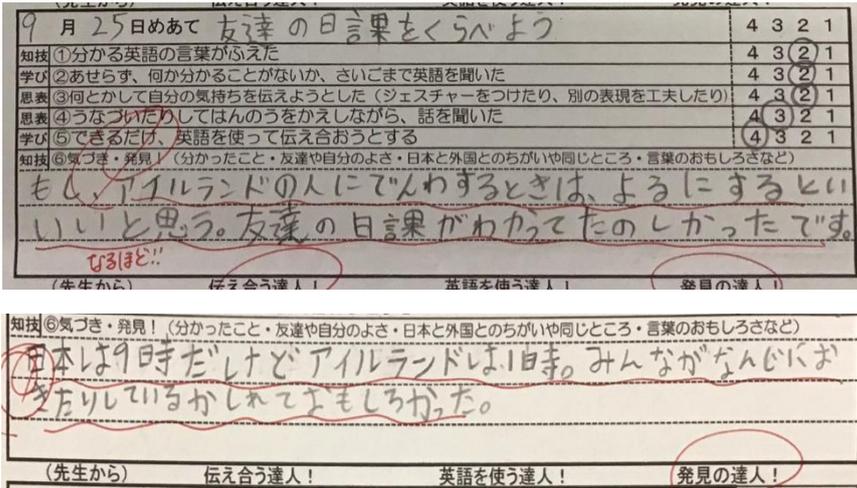
What's wrong? ④

I want to call Ireland.
(↑電話をかける仕草で)
But... What time is it in Ireland? ⑤

What time is it in Ireland? Ireland? Why? ⑥

子どもたちは『時差を考えて時刻を尋ねている』場面だと気づき、すぐにALTに現地の時刻を答えるために『世界時計』の機能を使いアイルランドの時刻を調べ始め、我先にIt's 1 a.m.と答えていました。更に「(日本時間の)夜に電話をかけるといい」と提案する子どももいました。

「相手」を知れば多様性に目が行き想像力や思いやる心を育めると実感。日常的に相手のことを考えるきっかけにしたいと考えています。



指導助言・アドバイスコーナー

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善においては、単元や題材など内容や時間のまとまりの中で、児童が考える場面と教師が教える場面をどのように組み立てるかが大切なポイントの一つです。本事例では、学級担任とALTのやり取りの中で、子供達が時差に気づき、ALTがどうすれば良いかを考えるようにしています。場面から子供達が何を話しているのだろうと考え、こんなことを話しているのだと判断し、その単元やこれまでに慣れ親しんだ語句や表現を使って自分の考えを表現するような言語活動を仕組むことが大切です。

(文科省視学官 直山木綿子)

